第１回大阪府環境審議会新環境総合計画部会の概要

と　き：平成12年８月30日（水）14：00～16：00
ところ：ＮＴＴ内本町会館９階「あわじの間」

《議　　事》

|  |  |
| --- | --- |
| ○ | 部会長代理の選出について |
| →・ | 前田部会長が池田敏雄委員を部会長代理に指名。 |
|  |  |
| ○ | 新環境総合計画策定のスケジュールについて |
| →・ | 今後のスケジュールとして、年度末に予定されている中間報告まで４，５回程度部会を開催する。 |
| 　 ・ | 第３回目の部会において、諮問を受けた、新しい環境総合計画の基本的な事項を検討するにあたり、府民や団体等から直接参考となる意見聴取を行う場(11月下旬を予定)を設定し、その募集方法は、部会長に一任する。 |
| 　 ・ | 中間報告は、出来る限り最終報告に近い内容とすることとなった。 |

（主な質疑応答）

|  |  |
| --- | --- |
| 委員 | 先の審議会で、必要があれば中間報告の審議会を開くという意見があったが、その点を踏まえているのか。 |
| 部会長 | 中間報告をもとに本審議会で審議を行い、そこで特段検討を要する意見が出れば再度部会で検討を行う必要があると考えている。 |
| 委員 | 部会の審議は、時間的に余裕があるのか。 |
| 事務局 | 来年度夏頃の答申をいただきたいと考えており、それまでには年度末から５ヶ月ほど時間があるので、十分審議いただく時間はあると思う。 |
| 委員 | 審議会での意見聴取については、出来るだけ幅広い意見が聞けるよう周知をお願いする。また、その人選にあたっては、透明性の確保に十分注意を払うとともに、公平な選考をお願いする。 |

○新環境総合計画策定に向けての課題について
　①環境の状況及び現計画の目標と進捗状況について

|  |  |
| --- | --- |
| 　 …・ | 以下の4つの環境について、事務局から現状を説明。　生活環境…自動車、廃棄物、大気環境、騒音、有害化学物質　自然環境…森林・農地　都市環境…公園・緑地、道路緑化、景観、史跡・文化財　地球環境…二酸化炭素排出量、酸性雨 |
| 　　　・ | 環境総合計画に掲げた個別目標ごと(窒素酸化物をはじめ50項目)の進捗状況について、事務局より説明。 |

（主な質疑応答）

|  |  |
| --- | --- |
| 委員 | 環境庁が全国的に調査した結果、かなり高濃度のダイオキシンが出た川があったと聞いているが、その点は反映されているのか。 |
| 事務局 | 今回、高濃度のダイオキシンが検出されたのは、八尾市の恩智川だが、これは環境庁がこれまでの調査で特に濃度の高かった河川を対象に実施した追跡調査の結果判明したもので、今回の資料には含まれていない。 |
| 委員 | 自動車公害の関係で、なぜ低公害車の導入が進まないのか。 |
| 事務局 | 低公害車の価格が高く、スタンドが少ないために消費者が買わない、ユーザーが少ないのでスタンドができない、消費者が買わないのでメーカーが作らないという３すくみの状態にあることが原因と考えている。 |
| 委員 | こうした状況を打ち破るためには、行政の主導による施策が必要。 |
| 委員 | ＮO２については、達成基準がまだまだ悪い。改善に向けさらなる取り組みを。また、企業に対しても一層の低公害車の技術革新をお願いしてほしい。 |
| 委員 | 自然歩道の整備がずれ込んでいる理由は。 |
| 事務局 | 土地の所有者との調整や急斜面のところに歩道を整備していること、また奈良県、和歌山県といった隣接県と整備進度をあわせる必要があることなどが理由としてあげられる。 |
| 委員 | 有害化学物質の測定は何項目しているのか。 |
| 事務局 | 環境庁では22物質の有害化学物質を指定しており、そのうち19物質について測定方法が確立しているので、府内で測定している。また、水質に関してはいわゆる環境ホルモンについても測定しており、農薬関係でも約60種類の測定を行っている。 |
| 委員 | 乗用車一人あたりの数値など、イメージしやすいデータも示してほしい。 |
| 委員 | 地球環境問題については、未だに府民の多くが実態を知らず数字だけが一人歩きしている感が強い。今後は、府民の意識行動まできちっとつながるような施策が重要になってくることが予想され、もっと多くの府民が参加するような取り組みが必要。 |

②新環境総合計画の枠組みについて

|  |  |
| --- | --- |
| …・ | 環境基本条例における計画の位置付け等を事務局から説明。 |
| →・ | 目標年次は、策定中の新しい大阪府総合計画との整合性を図り、2025年を見通しつつ、2010年までとする。 |

（主な質疑応答）

|  |  |
| --- | --- |
| 委員 | 今後は、ＩＴ革命のような大きな社会変化が、環境に影響を与えることが予想される。10年くらいの計画の期間で妥当ではないか。 |
| 委員 | 諸条件の変化に対応した小刻みな見直しも必要。 |
| 委員 | 4つの環境という区分と違う捉え方が必要。 |
| 委員 | 環境にからむビッグプロジェクトは現在あるのか。 |
| 委員 | 環境問題は、経済・社会構造と密接に関連しており、新しい総合計画との整合性を整理しておくことは重要。 |
| 事務局 | 関空のようなビッグプロジェクトは今のところない。将来像といった部分は、府の総合計画になるので、次回、現在の計画案を示し、府全体の施策の方向について紹介したい。 |
| 部会長 | 次の部会までに事務局には資料の用意をお願いする。また、委員の皆様には、できるだけ具体的な要望をだしてほしい。 |

③長期的な目標について
　　→現計画の｢長期的目標｣について事務局より説明。
④施策の展開について
　　→現計画の施策体系図により事務局より説明。
③④の議論については、時間がなくなったため、次回に持ち越し。

《その他》

|  |  |
| --- | --- |
| ○ | インターネットや府政モニター・アンケートによる府民意見聴取について |
| →・ | 大阪府の環境のホームページに意見聴取のページを開設し、問いかけに対する意見を求める。 |
| 　 ・ | 今年の秋頃府政モニターアンケートを実施する。 |

《次回の予定》
次回の部会は、10月末頃を予定。